

シンナガサキミーていんぐ開催レポート

i n 深堀地区



令和6年1月28日（日）、自治会やコミュニティ協議会、育成協、PTA、民生児童委員、消防団など14人の皆さんにお集まりいただき、深堀地区の「シンナガサキミーていんぐ」を開催しました。

自己紹介では、参加者の皆さんがそれぞれの立場で行っている地域のつながりづくりや安心安全のための活動、地域で暮らしていく中で感じていることなどをお話いただきました。



いただいたご意見

①密集地の消防活動対策

深堀地区は密集地で道が狭いため、火災があった時に、延焼をどう防ぐかが課題。道路が直角になっており、消防自動車もなかなか入らない状況だが、大きな取り付け道路があったら、何台かの消防車は入ってこれるのではないかと。

市の考え方
回答

防災道路については、候補路線となる市道の整備について沿線の皆様の調整が困難な状況にありますが、進入可能な道路の検討を行ったところ、市道深堀町93号線において、通常は県道沿いの橋梁部分でチェーンによる通行止めをしている箇所（民間で橋梁を所有）を緊急時のみ通行可能とするよう近隣居住者と協議が整ったことから、管理者である不動産業者と協議を進める予定としています。

また、深堀公園から神社までの川づたいの案については、河川沿いに景観法に基づく景観重要構造物に指定された石堀があることから、整備の可能性について調整を図っていく予定です。

②災害時の孤立集落対策について

能登半島地震同様に、長崎でも災害時に孤立集落が発生する可能性があるのではないかと。どういう対策を考えているのか、お聞きしたい。

市の考え方
回答

平時からの対策として、ソフト面では、ライフライン事業者や、災害協定を締結している事業者との連携などに取り組んでいます。

また、災害時の応急対策として、実際に孤立地域が発生した場合は、速やかに県や長崎海上保安部などの関係機関と協力し、海上輸送や航空輸送なども含め、複数の輸送ルートの確保を図り、孤立地域への物資の提供や、地域外への避難誘導等を実施することとしています。必要に応じ、県や九州市長会を通じた要請に基づき、自衛隊の協力を得る体制も整えています。

③地域活動の担い手人材について

自治会などの地域活動の役職が一部の人に集中することがある。「自分にできることは担おう」という意識が地域に広がるようになればいいと思う。

市の考え方
回答

会長や役員といった担い手不足は多くの自治会での課題となっていることから、担い手不足解消の一助として担い手育成研修やワークショップを開催しています。また、自治会加入促進キャンペーン中には自治会活動を広報紙や市政番組を使って周知しています。

加えて、オンライン会議やSNS等の研修会を開催する等、自治会活動のデジタル化や情報発信力向上の支援を行い、若い世代の自治会会員や未加入者に自治会の魅力や必要性について伝える機会を増やすよう努めています。

そのほか、「地域行事に学校が関わりやすくなるといい」、「外国人居住者が増えている。その方たちと地域が交わる機会を創出することがこれからの課題」、「自治会が築いてきたことを大切にしながら、若い世代もみんなで地域をよりよくしていきたい」などのご意見をいただきました。

いただいたご意見は、担当部局と共有し、今後の市政運営に活かしていきます。



鈴木市長のひと言

少子高齢化で、担い手不足に本当にお困りであるということが、あらためてよく分かりました。

そういう中で、地域活動を担う組織が、しっかりと元気に積極的に活動し、それがまた地域の皆さんのその絆を強めていくことが大切だと思いました。



参加者からの感想

市長が一つ一つ丁寧に受け入れ、答えてくれた。参加することで、地域の問題が分かった。

対話の中で、今まで遠い存在だった市長を身近に感じました。

参加者の色んな要望・意見、質問等聞けて良かった。

地元、長崎（深堀）が住みよいまちになるように努力されてることが感じられたので、市長を交えて、話ができて良かった。

